

武蔵殿御消息

正元元年七月一七日 三八歳

撰論三卷は給^たび候へども、釈論等の各疏候はざるあひだ事ゆかず候。をなじくは給^{しゅうろん}び候ひて^{見合}みあわすべく候。見参の事いつにてか候べき。仰せをかほり候はん。

八講はいつにて候やらん。

七月十七日

日 蓮花押

武蔵殿御房